

## HUMANiMAL と作者自身について

作者の描く HUMANiMAL は、想像力を働かせて動物を人になぞらえること、いわゆる擬人化のそれとは一線を画するものである。

京都造形芸術大学を1年休学中に、自身の創作の方向性を模索していたとき、脳裏に一眼球を裏返して網膜の反対側にあるもう一つの現実世界を一眺め回していたとき、そこにぼんやりと姿を見させている、ある種の妖怪のような存在を認め、「ではまずこれをモチーフとして表現すればよいのではないかとひらめいた。

「妖怪を描く」といえば、『ゲゲゲの鬼太郎』の作者水木しげるが有名である。彼が妖怪を「見た」かどうかは定かではないが、彼自身の内面においてはやはり、「妖怪」は同様に「ありもしないこと・絵空事」ではなかっただろう。実際、水木しげるが“描き写す”以前から河童や入道や鬼など、異形の者はあまたの文献や絵図に登場していたし、小泉八雲はそれらの伝承を物語とし、柳田邦夫もまたその道の大家であることは言うまでもない。

なので妖怪は「在る」もので、「とある里に居る」ものであった。そのゆえに HUMANiMAL もまた「居る」のである。

ところでさて、最初に創作に取り掛かったのは猫—正確には猫ではないが、人間の言葉に翻訳するとなると語彙の貧弱さゆえ猫としか言えない—であった。この試みは失敗だった。おそらく自身に植え付けられた「躰」と「常識」が、あの反転世界で見た HUMANiMAL を翻訳させようとして、“生まれもつかない HUMANiMAL”を描かせたのである。人間の姿に動物の毛皮を着せようとも、それは真の HUMANiMAL とは似ても似つかないだろう。

その後、いわゆる十二支に因んだ“動物”（ここでもやはり言葉の壁が立ちはだかる）を一つずつ検証し、あの懐かしく親和性のある“彼ら”を描く試みを継続し、今に至る。

幸いにして油彩画は、作者と画面上とのやりとりによって、“描かれるべき真実”が数々の葛藤と逡巡を繰り返すうちに完成形へと近づく性質のある美術であるので、おぼろげで、ともすれば雲散霧消してしまいがちな HUMANiMAL の形象と色彩を顕現させるのにとってつけな絵画である。表現手段においては、“動物”のモデルを参照しながら、どの程度ヒトであるか、どれぐらい動物かを見分けることによってデッサンを極めていくわけであるが、作者の「心」のありようにおいては、もちろんそれはたいした問題ではない。すでに述べたように、それはすでに「居る」ものであるから、動物写真の切り抜きなどは参考程度と考えている。あの懐かしい網膜の裏側の世界において自分が見たと信じる物の出来る限り正確な再現は、すなわち「汝自身を知れ」という実存主義哲学の追究にも通じている。

作者の描こうとする HUMANiMAL の本質は、全ての生きとし生ける者に共通する言語—すなわち「共通感覚として流れる通底的な愛の本質」にほかならない。心優しく慈愛に満ちて、決して他人を傷つけず、他者の、自分自身の命を大切にしながら、天に生かされて生きていく姿こそ理想であるという「思想」なのだ。作者はそれを HUMANiMAL の表情において表現する。

未だ完成形には程遠いといえるが、ライフワークとして、愛の具象表現としての HUMANiMAL を描き続けていきたいと思うしだいである。

北村こう

北村こう  
KITAMURA Kou

1962年 石川県生まれ 京都府在住  
1986年 大谷大学文学部哲学科 卒業  
2020年 京都芸術大学通信教育部 芸術学部美術科洋画コース卒業  
1999年 『癒されたい人のための「詩小説」』出版（近代文芸社）  
Twitterにて「PM8時の詩・物語」毎日投稿中



twitter  
@kounya5

北村こう 個展

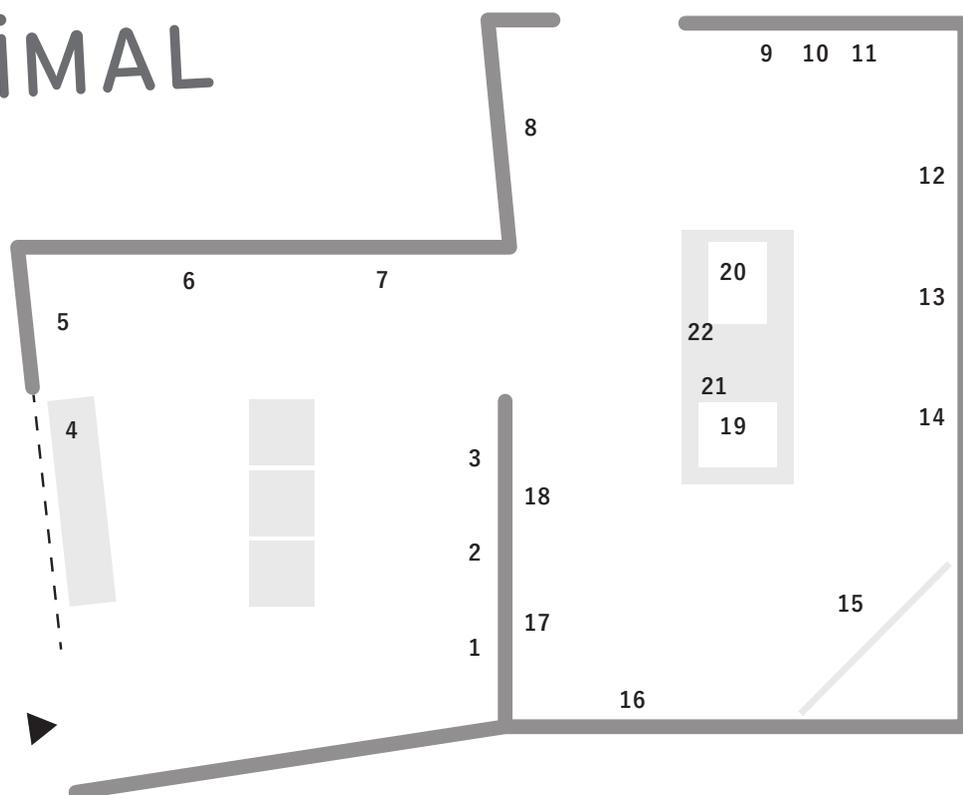
# HUMANiMAL

2022

7.12 [火] — 9.25 [日]

10:00 — 18:00

入場無料



作品タイトル	制作年	素材・技法
1 《HUMANiMAL -サッカーのとら》	2020	油彩、キャンバス
2 《HUMANiMAL -ぶたのファミリー》	2020	油彩、キャンバス
3 《HUMANiMAL -くまの家族》	2020	油彩、キャンバス
4 《タイトル不明》	制作年不明	油彩、布、紐、厚紙、紙
5 作家テキスト「HUMANiMAL と作家自身について」	2022	
6 《HUMANiMAL -雪山のテン》	2021	油彩、キャンバス
7 《HUMANiMAL -コテージでくつろぐプレーリードッグ》	2017	油彩、紙
8 《HUMANiMAL -ねこ》	2017	油彩、キャンバス
9 《タイトル不明》	制作年不明	鉛筆、紙
10 《タイトル不明》	制作年不明	鉛筆、紙
11 《タイトル不明》	制作年不明	鉛筆、紙
12 《HUMANiMAL -バリ〜下町の不良少年》	2018	油彩、キャンバス
13 《タイトル不明》	制作年不明	鉛筆、紙
14 《HUMANiMAL -インコの中学生》	2018	油彩、キャンバス
15 《因縁：INNEN》	2019	油彩、キャンバス
16 《HUMANiMAL -月とやぎ》	2021	油彩、キャンバス
17 《染色体 XX (夢)》	2013	油彩、キャンバス
18 《HUMANiMAL -うしの親子》	2020	油彩、キャンバス
19 《HUMANiMAL -うしの親子 (エスキース)》	制作年不明	鉛筆、紙
20 《HUMANiMAL -雪山のテン (エスキース)》	制作年不明	鉛筆、紙
21 《跳躍》	制作年不明	石塑粘土
22 《タイトル不明》	制作年不明	油彩、紙、厚紙

個人ブログ「<詩人・画家>北村こうのポエムノート Day Dream」及び、現在 Twitter (@kounya) にて毎日投稿中の「PM8 時の詩・物語」より抜粋した詩を、会場内 1 2 箇所に表示しております。